

5 計画の目標及び実施事業

(1) 目標及び実施事業

「公共交通網の形成に関する基本的な方針」において掲げた基本的な方針ごとの目標及び達成状況を明確化するための目安となる評価指標と目標値を定め、公共交通の課題を踏まえた基本的な方針及び目標の実現に向けて、次の事業を実施する。

基本的な方針	目標	事業	実施主体							実施時期(年度)										評価指標 事業の実施状況や整備の量を直接示す指標				須賀川市第8次総合計画 施策の成果指標						
			須賀川市	周辺市町村	福島県	交通事業者	路線バス	タクシー	地域	その他関係者	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	指標名	現状値	目標値	備考	指標名	現状値	目標値(2028)			
																												指標名	現状値	目標値
1 各公共交通機関の機能・役割を明確にし、時間帯毎の需要変動や広域アクセスを考慮した地域公共交通網の再編を目指す	①都市・地域間の連携に資する公共交通網の形成	【1】市民・来訪者の移動ニーズに対応した路線バスの再編	○	○		○														検討	→	運行実施(順次)	→	路線バス利用者満足度	60.8%	70%	※1	須賀川市第8次総合計画 施策の成果指標 公共交通が利用しやすいと思う市民の割合 67.2% ↑ 公共交通の乗車人員 117万人 →		
		【2】高校生の通学実態・ニーズに対応した路線バスの再編	○	○		○															検討	→	運行実施(順次)	→	路線バス利用者満足度	60.8%	70%		※1	
		【3】市内循環バスの再編	○			○															検討	→	運行実施	→	市内循環バス利用者満足度	72.2%	80%		※2	
		【4】乗合タクシーの見直し・拡充	○					○	○													検討	→	運行実施(順次)	→	乗合タクシー利用者満足度	84.6%		90%	※3
		【5】JR東北本線・JR水郡線の利用促進	○	○	○	○																		企画・開催	→	鉄道利用者満足度	34.7%		45.0%	※4
		【6】タクシーの利用促進	○					○																検討・実施(順次)	→	タクシー利用者満足度	51.5%		60.0%	※5
	②広域アクセスに関する利便性の向上	【7】須賀川市～福島空港間のアクセス確保	○	○	○	○																	周知PR・実施	→	福島空港へのアクセス路線数	-	1件			
2 各公共交通機関との相互連携や、誰もが利用しやすい環境整備による利便性向上を目指す	③乗継環境や乗降しやすい車両整備による利便性の向上	【8】交通結節点の機能強化	○			○	○	○														須賀川駅の整備内容検討・実施	→	乗継のしやすさの利用者満足度	20.0%	30%	※6			
		【9】利用しやすい車両(バス・タクシー)の導入	○		○	○	○																更新検討・順次導入	→	バス車両のバリアフリー化率	25.7%	30%	※7		
3 市民や来訪者等が分かりやすい公共交通サービスを目指す	④公共交通に係る分かりやすい情報提供	【10】運行情報提供の充実	○		○	○	○															検討・作成	→	周知PR(継続実施)	→	公共交通総合マップの配布数	-	延34,000部	※8	
	⑤高齢者移動支援策の充実	【11】公共交通への移手段の転換に関する負担軽減	○			○	○																検討	→	実施	→	公共交通総合マップの配布数	-	延34,000部	※8
4 様々な団体等との連携によるまちづくりと一体となった持続可能な公共交通を目指す	⑥商業施設等との連携による公共交通利用促進	【12】商業施設等との連携サービスの導入	○			○																	検討	→	実施	→	商業施設等との連携による利用促進活動の導入件数	-	2件以上	※9
		おでかけモデルプランの作成	○																					検討	→	周知PR	→	商業施設等との連携による利用促進活動の導入件数	-	2件以上
	⑦公共交通の維持・確保に関する意識醸成	【13】路線バス等の乗り方教室の開催	○			○	○																	実施	→	乗り方教室参加者数	-	延300人	※10	
	⑧公共交通の輸送を担う人材確保	【14】運転手の確保策の実施	○			○	○																	実施	→	運転手等確保策の実施回数	-	延10回	※11	

※1 路線バス利用実態調査による運行サービス満足度のうち、「満足」+「やや満足」の割合の平均値を年1%のペースで向上

※2 市内循環バス利用実態調査による運行サービス満足度のうち、「満足」+「やや満足」の割合の平均値を年1%のペースで向上

※3 乗合タクシー利用実態調査による運行サービス満足度のうち、「満足」+「やや満足」の割合を年1%のペースで向上

※4 市民アンケート調査による鉄道の運行サービス満足度のうち、各項目における「満足」+「やや満足」の割合の平均値を年1%のペースで向上

※5 市民アンケート調査によるタクシーの運行サービス満足度のうち、各項目における「満足」+「やや満足」の割合の平均値を年1%のペースで向上

※6 市民アンケート調査による路線バス(循環含む)利用者の運行サービス満足度のうち、乗継のしやすさで「満足」+「やや満足」の割合の平均値を年1%のペースで向上

※7 ノンステップバス車両の割合

※8 2020年度に公共交通総合マップを3万部、以降各年度500部作成及び配布

※9 商業施設等と連携した公共交通利用者に対するサービスを2件以上実施

※10 乗り方教室を2019年度から年1回参加者30人程度、延べ10回実施

※11 運転手確保に関する説明会等を2019年度から年1回程度、延べ10回実施

(2) 実施事業の概要

実施事業について、目標ごとに事業の概要や実施主体を整理する。

目標① 都市・地域間の連携に資する公共交通網の形成

「こおりやま広域連携中枢都市圏」等との将来的な連携のあり方や広域での計画策定を見据えながら、郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村、石川町等周辺市町村への広域アクセスや、市内各地区と須賀川駅及び中心市街地を連携する公共交通網を形成し、各公共交通機関の利用者満足度の向上を目指す。

【事業1】 市民・来訪者の移動ニーズに対応した路線バスの再編

①事業概要

路線バスは、利用者数が特に市内路線バス（10系統）で大きく減少し、全ての系統で赤字のため、公費負担により維持している。

市民アンケート調査では、運行サービスに対する満足度で運行本数、運区時間帯に次いで他のバスや鉄道との乗り継ぎのしやすさの不満度が高く、また、公共交通の利用意向として商業施設や公共施設、市内病院へのアクセスに対するニーズが高い状況となっている。

しかしながら、路線バスの一部の系統は、須賀川駅周辺に立地する商業施設、医療機関等へアクセスしておらず、路線バスや市内循環バスへの乗換えが必要となっている。

このため、市内路線バス（9系統）については、主な利用者である通勤・通学者への移動を確保しつつ、利用が少ない日中時間帯について乗合タクシーの拡充など新たな移動手段の可能性について検討する。

また、広域路線バス（13系統）については、バス事業者や周辺市町村との協議・調整や、中心市街地内で運行中の市内循環バスとの役割分担を図りながら、維持・確保しつつ、利用需要に合わせた再編を検討する。検討に当たっては、商業施設、医療機関等への一部経路変更とバス停の新設や、通院や買い物実態に即したダイヤの見直し、鉄道や市内循環バスとの接続向上などに配慮する。

②実施主体：バス事業者、須賀川市、周辺市町村（郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村、石川町）

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
市民・来訪者の移動ニーズに対応した路線バスの再編	再編内容検討	→									
	運行実施（順次）			→							

【事業2】 高校生の通学実態・ニーズに対応した路線バスの再編

①事業概要

本計画の策定にあたり、高校生アンケート調査で通学実態・ニーズを把握したが、高校生の居住実態は毎年変わるため、継続的に通学需要を掴むための仕組みが重要である。

高校生アンケート調査によると、片道のみバスを利用している人のうち、須賀川高校、須賀川桐陽高校、清陵情報高校の3校で「下校（登校）時間と合わないから」といった理由で、バスを使わない割合が5割を超えて高くなっており、運行本数の増便に対する要望が多い。

このため、市内高校、バス事業者及び須賀川市・周辺市町村の3者で連携し、通学者の通学経路に対する情報共有や、登下校時間に合ったルート・ダイヤ設定等について検討する。

②実施主体：バス事業者、須賀川市、周辺市町村（郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村、石川町）、高校

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
高校生の通学 実態・ニーズ に対応した路 線バスの再編	再編内容検討		→								
	運行実施（順次）			→	→	→	→	→	→	→	→

【事業3】市内循環バスの再編

①事業概要

市内循環バスの収支率は、2018年度から2019年度にかけて26.9%と低下し、東循環バス（30.7%）より西循環バス（20.5%）の方が低い。

市内循環バス利用実態調査によると、運行サービスの満足度は相対的に高いものの、10歳代で不満度が高い。また、改善して欲しいサービスについては、通学目的の割合が多い東循環バスで運行本数や運行時間帯の割合が多く、次いで鉄道・路線バスとの乗継ぎも約3割を占めている。高校生アンケート調査でも、下校（登校）時間と合わないからといった理由で、バスを使わない割合が5割を超えて高くなっている。

一方で、地域住民等へのインタビュー調査において、市内循環バスが運行していない地区（稲田地区、仁井田地区、大東地区など）で市内循環バスに対する要望が挙がっている。

このため、現在運行中の市内循環バスについて、「須賀川市立地適正化計画（策定中）」のまちづくりの方向性との整合を図りながら、利用実績やニーズ、2019年1月にオープンした須賀川市民交流センター「tette」の開館時間※等を考慮しつつ、運行便数の調整による東循環バスの増便（現行（平日）：東循環バス10便、西循環バス14便）、高校生のニーズ（下校時間）に合ったダイヤ設定、運行時間帯の拡大及び鉄道・路線バスとのダイヤ接続などについて、バス事業者との協議・調整を図りながら見直しを検討・実施する。

また、新たな地区における市内循環バスの導入へ向けて、人口集積度や交通不便地域、路線バスの再編（須賀川線の大幅減便など）等を考慮し、検討する。

さらに、「第2期須賀川市中心市街地活性化基本計画（2019年4月）」に基づき実施予定の市民交流センターを核とした回遊推進事業や、ウルトラマンを活用したまちづくり事業、2019年度に整備を進める（仮称）文化創造伝承館の実施する交流推進事業などと連携を図りながら利用促進策を実施する。

※ルーム・ホール・交流スペース 9：00～22：00／図書館 9：00～20：00

／こどもセンター 9：00～17：00／市民活動サポートセンター 9：00～17：00

／円谷英二ミュージアム 9：00～17：00

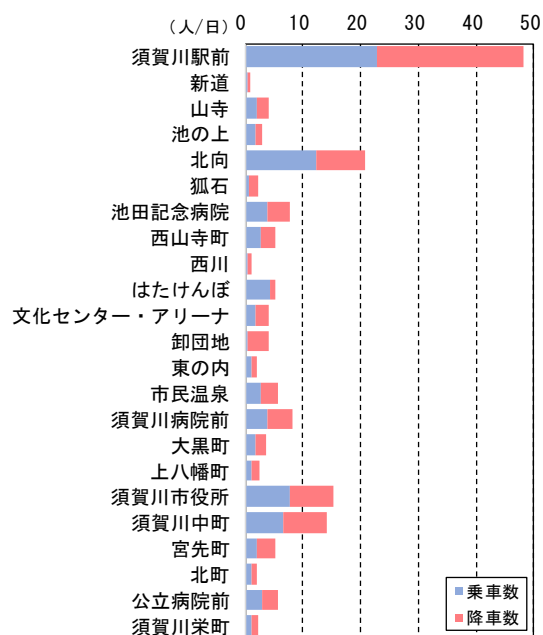
②実施主体：バス事業者、須賀川市

③実施時期

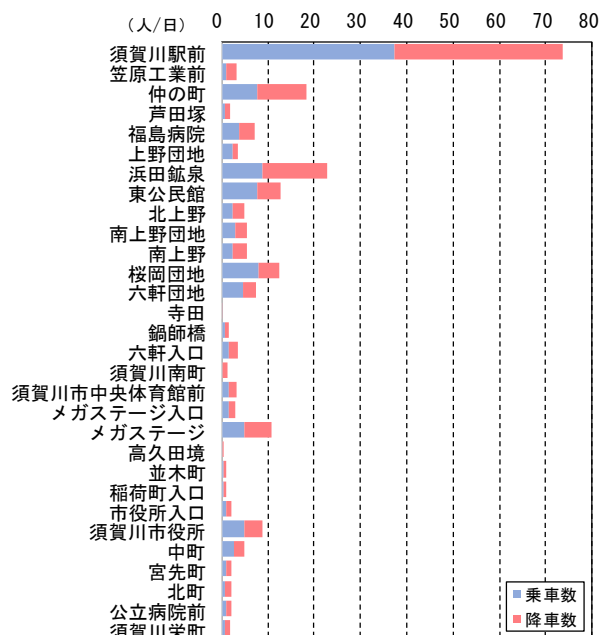
事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
市内循環バス の再編	再編内容検討	→									
	運行実施			→							

（参考）バス停別1日平均乗車・降車数（2017年10月1日～2018年3月31日）

【西循環バス】



【東循環バス】



【事業4】乗合タクシーの見直し・拡充

①事業概要

東部地域（浜田、小塩江、大東地区）や西部地域（稲田地区、各ニュータウンエリア）で運行中の乗合タクシーは、収支率の悪化や行政負担額が増加傾向となっている中で、乗合タクシー利用実態調査において運行日の拡大や運行便数の増便、予約受付時間帯の拡大（土日祝も）等の要望が挙げられている。

また、市民アンケート調査では乗合タクシーが運行中の東部地域を含め、全域で70歳以上の高齢者や運転免許を持っていない人で困り具合が高く、家族・友人等の送迎による対応や外出意欲の低下といった状況となっている。地域住民等へのインタビュー調査でも、現在は自家用車移動が中心となっているが、将来の移動に対する不安や、移動手段がないために免許を返納できないといった意見が挙げられている。

このため、現在運行中の乗合タクシーについては、利便性の向上や財政負担等を考慮しつつ、タクシー事業者との協議・調整を図りながら、運行日、運行便数、予約受付時間帯などの運行サービスの見直しを検討し、実施する。

交通不便地域が広範囲に点在している西部地域（西袋、仁井田、長沼、岩瀬地区）については、路線バスとの役割分担を図りながら、乗合タクシーの運行エリアの拡充について検討し、実施する。

なお、乗合タクシーでカバーできない地域については、バス・タクシーといった既存の交通事業者の活用を十分に検討した上で、自家用車有償旅客運送の導入も含めて検討する。

②実施主体：タクシー事業者、須賀川市、地域

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
乗合タクシーの 見直し・拡充	サービス検討	→	→								
	運行実施（順次）			→	→	→	→	→	→	→	→

【事業5】JR 東北本線・JR 水郡線の利用促進

①事業概要

JR 東北本線及び JR 水郡線は、須賀川市内外の公共交通による移動及びまちづくりの根幹に寄与する重要な機能を担う交通機関である。

各種アンケート調査では、鉄道とバスとの乗り継ぎのしやすさで満足度が低いため、JR 東北本線及び JR 水郡線との接続改善に資する情報を共有する情報提供等の場の設置について検討する。

さらに、旅行者の誘客促進、利用者の利便を図るため、「バス・鉄道利用促進デー」の周知PRや各種イベントの連携などにより利用促進活動を実施する。

②実施主体：鉄道事業者、福島県、須賀川市、周辺市町村（郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村、石川町）

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）										
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
JR 東北本線・ JR 水郡線の利用 促進	イベント 企画・開催											→

【事業6】タクシーの利用促進

①事業概要

タクシーは自宅から目的地まで移動できるため、個別ニーズにきめ細かく対応可能であることから、鉄道駅やバス停留所まで歩くことが困難な高齢者等にとって重要な交通機関であるが、タクシー事業者アンケート調査でも運転手の不足や高齢化が大きな課題となっている。

市民アンケート調査では、運行サービスに対する満足度で運賃や、料金・サービスなどの運行情報案内の不満度が高くなっている。

このため、イベント開催時や「公共交通総合マップ」によるタクシー情報の周知や、観光タクシーによる新たな需要の獲得など利用促進を実施する。

②実施主体：タクシー事業者、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）										
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
タクシーの 利用促進	利用促進策の検 討・実施（順次）											→

目標② 広域アクセスに関する利便性の向上

須賀川市だけでなく、全県的な空の玄関口である福島空港へのアクセス確保へ向けて、広域的な視点で県などと連携しながら、利便性の向上を目指す。

【事業7】 須賀川市～福島空港間のアクセス確保

①事業概要

福島空港へのアクセスは郡山駅、郡山駅乗り継ぎによる会津若松駅前バスターミナル及びいわき駅と連絡するリムジンバスが運行中である。福島空港や、福島県及び須賀川市の地域活性化を図るため、バス事業者や周辺市町村と協議・調整しながら、既存路線バスの一部ルート変更等も含めて、福島空港へのアクセス確保へ向けて検討する。

また、店舗・施設の割引サービスが可能な「福島空港ファンクラブ」の協賛企業の拡大など周知PRを行う。

②実施主体：バス事業者、福島県、須賀川市、周辺市町村（郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村、石川町）

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）											
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028		
須賀川市～ 福島空港間の アクセス確保	検討、協議・調整												
	周知PR・実施												

目標③ 乗継環境や乗降しやすい車両整備による利便性の向上

各公共交通機関との相互連携に資するよう、交通結節点での乗継環境の整備を進めるとともに、高齢者をはじめ誰もが乗降しやすい車両整備により、利便性の向上を目指す。

【事業8】 交通結節点の機能強化

①事業概要

交通結節点は、乗り場での行き先表示の情報提供の改善や、各交通機関の乗継案内、待合空間の整備について充実を図るとともに、サイクル&バスライド駐輪場の整備や、乗継抵抗の軽減に資する乗継時間や運賃負担などについて検討する。

なお、乗継ダイヤについては、需要の多い路線・ダイヤに限定するなど効率的な運行となるようにバス事業者と協議・調整を行う。

特に、須賀川市の玄関口である須賀川駅については、「須賀川駅西地区都市再生整備計画事業」による東西自由連絡通路や駅前広場、駐車場等の整備を推進する。

②実施主体：鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
須賀川駅の機能強化	整備内容検討・調整、実施（順次）										
中心市街地内の交通結節点の機能強化	整備内容検討・調整、実施（順次）										

【事業9】 利用しやすい車両（バス・タクシー）の導入

①事業概要

路線バス、タクシー車両について国や福島県の補助制度を活用し、乗降りが容易で立席及び着席がしやすいノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーなど、乗降しやすい車両の導入を進める。

②実施主体：バス事業者、タクシー事業者、福島県、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
利用しやすい車両（バス・タクシー）の導入	更新検討・順次導入										

目標④ 公共交通に係る分かりやすい情報提供

市民や、来訪者、観光客などに分かりやすい公共交通に係る情報提供の充実により、利用しやすい環境づくりを目指す。

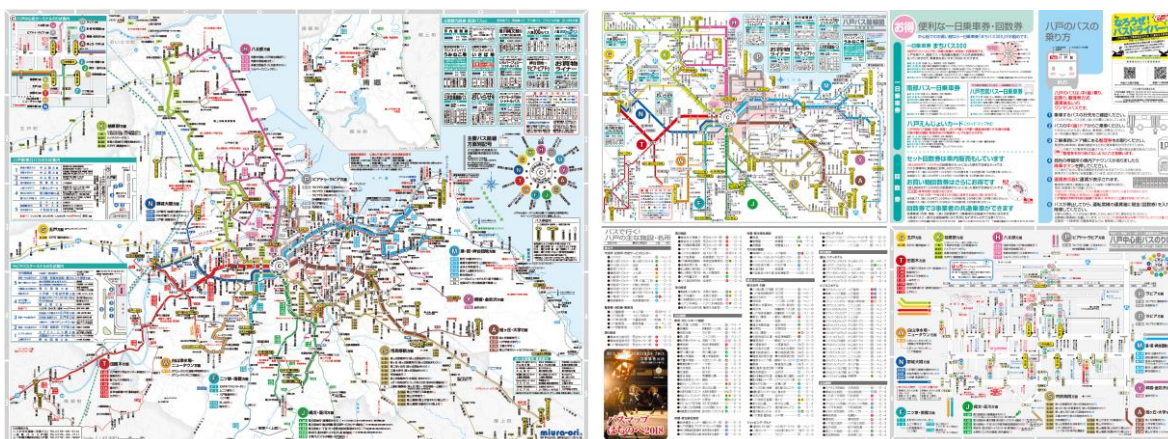
【事業 10】 運行情報提供の充実

①事業概要

鉄道や路線バスなどの運行情報案内は、鉄道事業者やバス事業者、市役所などのホームページや「BUS MAP（県南版）」で路線・ダイヤなどの運行情報を提供している。また、インターネット上の経路検索等の情報サイトなどへ乗換案内・時刻表・運行情報を提供している。

市民や来訪者へ市内の公共交通の運行内容を分かりやすく伝え、利用促進を図るため、各公共交通機関のダイヤ、運賃などを網羅的に掲載した「公共交通総合マップ」を作成し、配布する。

【事例】青森県八戸市「バスまっぷはちのへ」



②実施主体：鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）										
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
公共交通総合マップの作成・配布	情報検討、マップ作成・配布		→									
	周知PR（継続実施）			→	→	→	→	→	→	→	→	→

目標⑤ 高齢者移動支援策の充実

高齢者の移動支援の充実により、高齢者の交通事故の抑制と公共交通の利用促進を目指す。

【事業 11】公共交通への移動手段の転換に関する負担軽減

①事業概要

市民アンケート調査では、公共交通の利用促進を図るための効果的な取組みとして「自動車運転免許返納者への公共交通割引などの制度の導入」が 52.2%と 1 番目に高く、地域住民等へのインタビュー調査でも将来の移動に対する不安から、免許返納者への優遇措置に対する要望が多く多くの地区で寄せられた。

高齢者の交通事故の抑制と公共交通の利用促進を図るため、高齢者運転免許自主返納者への優遇措置について支援内容や対象者など総合的に検討し、実施する。

また、「ノルカパス 65、ノルカパス 75（福島交通）」や、福島県タクシー協会による 65 歳以上の免許返納者 10%運賃割引について、市ホームページや広報誌、「公共交通総合マップ」などの情報媒体を活用し、周知PRを積極的に行う。

■県内自治体の主な運転免許自主返納者への優遇措置

自治体名	特典・サービス内容	備考
郡山市	・5,000円分のバス・タクシー利用券（500円券が10枚綴り、1人1回限り、有効期限は1年間）	・75歳以上の返納者（2017年8月1日以降）
会津若松市	・バス運賃半額（ハイカラさん、あかべえ、ピカリン号、みなづる号） ・会津鉄道運賃3割引（西若松駅～会津高原尾瀬口駅） ・登録加盟店での料金割引等サービス	・65歳以上の返納者
白河市	・白河市循環バス（こみねっと）、表郷地域巡回バス、大信地域自主運行バス及び東地域巡回バスの料金免除 ・「ふれあいバス応援事業協賛店」での料金割引等サービス	・70歳以上の方 ・70歳未満の返納者
伊達市	・デマンドタクシー（まちなかタクシー）の優待証と乗車料金の200円割引券（20,000円、1年分）の交付 ※有効期限はなし	・65歳以上の返納者
本宮市	・巡回バス、イクタンタクシー等に乗車可能な共通利用券50,000円分の交付（希望者は5,000円分を市内タクシー利用券に交換可能）	・65歳以上の方（2017年1月以降）
喜多方市	・デマンド交通のバス回数券100枚（40,000円相当） ・市内のタクシー会社の助成券100枚（40,000円相当）	・65歳以上の返納者
南相馬市	・タクシー利用券10,000円分（1枚500円・20枚綴り） ※有効期限は交付決定日から3年以内	・65歳以上の返納者
南会津町	・各交通機関（町内の鉄道、バス、タクシー等）の共通利用券を年間15,000円分（有効期限は1年間） ・支援期間は初めて交付のあった日から5年間	・65歳以上の返納者

②実施主体：バス事業者、タクシー事業者、須賀川警察署、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
免許返納者支援制度の導入	制度検討	→									
	実施		→	→	→	→	→	→	→	→	→
免許返納者優遇措置の周知PR	実施		→	→	→	→	→	→	→	→	→

目標⑥ 商業施設等との連携による公共交通利用促進

公共交通で移動しようとする目的地である商業施設等と連携し、地域ぐるみで公共交通の利用促進を目指す。

【事業 12】 商業施設等との連携サービスの導入

①事業概要

まちの賑わいの創出を促すため、福島交通㈱で実施中のエコチケットの周知PRを図るとともに、商業施設や観光施設等と連携し、公共交通の利用に付加価値を付けた割引サービスや企画切符等を検討する（帰りの路線バスきっぷの進呈、公共交通利用者へのポイントサービスなど）。

さらに、公共交通に乗り慣れていない市民や観光客に対して、公共交通を利用して安心かつ抵抗なく目的地に移動できるよう、公共交通を利用した「おでかけモデルプラン」を作成し、市ホームページへの掲載などにより需要の掘り起こしを図る。

②実施主体：バス事業者、企業、観光協会、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）									
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
割引サービス・企画切符等の導入	企画内容検討	→	→								
	実施			→	→	→	→	→	→	→	→
おでかけモデルプランの作成	プラン検討・作成	→	→								
	周知PR			→	→	→	→	→	→	→	→

目標⑦ 公共交通の維持・確保に関する意識醸成

公共交通利用者層の拡大を図るため、公共交通の維持・確保に関する市民意識の醸成を目指す。

【事業 13】 路線バス等の乗り方教室の開催

①事業概要

将来的な利用者となる小・中学生や、高齢者を対象に、実際に路線バス車両等を使用し、乗車マナーやルールなどを学習するための路線バス等の乗り方教室を開催し、市の公共交通の現状に対する理解を深め、過度な自家用車利用から公共交通利用への転換を促す、モビリティマネジメント活動の施策を展開する。

【事例】 福島交通・郡山市での乗り方教室

将来を担う子供達を対象に、小学校やイオンタウン郡山で「地球温暖化」と「バスの乗り方」の説明、乗車体験、アルコールチェック体験・死角体験、車いすでの乗車体験、高速バス見学等を行っている。



②実施主体：バス事業者、須賀川市、地域

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）										
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
路線バス等の乗り方教室の開催	実施											→

目標⑧ 公共交通の輸送を担う人材確保

路線バス・タクシーのサービスの維持する上で必要不可欠である新たな人材の確保を目指す。

【事業 14】 運転手の確保策の実施

①事業概要

路線バス・タクシー運転手の高齢化や不足が指摘されている中で、路線バス・タクシーのサービスを維持する上で運転手の確保は必要不可欠である。

須賀川市内の路線バス・タクシー事業者では、ホームページなどで運転手の求人を継続的に求めているものの、運転手確保に非常に苦慮している状況のため、須賀川市で実施中の「合同就職面接・企業説明会」、バスやタクシー運転手に特化した就職イベントの開催など、多様な主体が連携しバス・タクシー事業の魅力や社会的な重要性を周知するための確保方策について検討・実施する。

②実施主体：バス事業者、タクシー事業者、須賀川市

③実施時期

事業	実施項目	実施時期（年度）										
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	
運転手の確保策の実施	実施											→

(3) 実施体制

前項で掲げた事業の円滑な推進に当たっては、公共交通を支える「地域」、「交通事業者」、「行政」の三者がそれぞれの役割を認識し、連携を強化しながら、持続可能な公共交通の確保に努める。

①行政

交通事業者や地域住民等の意向を調整し、公共交通の持続可能性の維持・確保、充実へ向けて総合的な支援を行う。

- 地域、交通事業者その他関係団体との総合調整
- 公共交通に関する情報発信及び利用促進に関する意識の醸成
- 公共交通に関するアンケート調査等によるニーズ把握
- 地域主体の移動手手段の確保に関する意欲の高い地域の支援
- 道路・鉄道駅周辺施設等の環境整備

②交通事業者

地域の公共交通を担う責任のもと、安全性の確保及び利便性と持続可能性の両立した公共交通サービスの維持・充実に努める。

- 安全で快適な公共交通サービスの提供
- 利用者や地域の意見を踏まえたサービスの改善
- 交通施策に対する専門的な知見の提供や提案
- 利用者へのきめ細やかな情報提供
- 停留所・車両をはじめとする交通関連施設等の整備推進

③地域（市民、民間企業等）

公共交通の利用者として、また将来に自らが利用者となる可能性があることを踏まえ、利用促進や移動手手段の確保に関する取組への主体的な参画により、公共交通の持続可能性と利便性の向上に協力する。

- 積極的な公共交通利用及びその呼び掛け
- 利用促進の取組みへの参加
- 地域のニーズに関する情報提供、アンケート調査等への協力
- 地域主体による移動手手段の確保の実施

(4) 今後の公共交通網のあり方

ア) 公共交通ネットワーク再編の基本的な考え方

須賀川市の公共交通ネットワークは、基本理念である「連携促進による持続可能な公共交通網の構築」の実現に向けて、時間帯毎の需要変動、運行の効率性、財政負担などを考慮し、次の観点から「各地区と須賀川駅及び中心市街地を連携するネットワーク」の形成を目指す。

【公共交通ネットワーク再編の基本的な考え方】

○限られた財源のなかで、時間帯毎の需要変動を考慮した路線バスと乗合タクシーとの組合せによる有効活用及び輸送効率の向上を図る。

公共交通に関する 2017 年の須賀川市行政負担額は、約 9,160 万円（路線バス：約 7,000 万円、市内循環バス：約 710 万円、乗合タクシー：約 1,450 万円）と財政的な負担が大きい状況であるが、市民アンケート調査によると、公共交通に対する財政負担の考え方について、今の財政負担程度のなかで、今の公共交通を見直し・維持という回答が 53.8%と高い。

路線バス利用実態調査によると、広域路線バスは幅広い年齢層が通勤、通学、買い物、通院など多様な目的で、市内路線バスは 10 歳代を中心に、通学目的での利用が多く、ダイヤ別利用者数でも朝夕時間帯で利用が多いため、時間帯毎の利用実態に応じた交通手段の選択による有効活用及び輸送効率の向上を図る。

○須賀川駅周辺の市街地内をコンパクトに効率的で効果的に結ぶ公共交通ネットワークの形成を図る（市内循環バスの利便性向上）。

➡「須賀川市立地適正化計画（策定中）」や「第 2 期須賀川市中心市街地活性化基本計画（2019 年 4 月）」などまちづくりとの連携を図る。

○交通結節点の機能強化による、公共交通機関同士の相互連携を図る。

イ) 公共交通機関の機能分担

須賀川市は市域が東西に約 38 km と細長く、目的地・外出パターンに合った直行性を追求した公共交通網の場合、路線長が長大となり、利便性や効率性などの低下が懸念される。

一方で、公共交通網は、都市計画マスタープランで掲げた将来都市構造に対応したバランスのとれた市街地形成や各地域が有機的に連携した一体的な都市形成を支える重要な役割を担っている。

このため、各公共交通機関が提供するサービスの特徴を最大限に発揮するよう、機能を分類し、集約型都市構造の推進や広域的な連携の観点から、利便性向上と効率的な運行を目指す。

■各公共交通機関の機能分担

機能分類		性格	
広域幹線交通	基幹公共交通	・基幹公共交通は、都市間を連絡するメインの公共交通軸。	○JR 東北本線 ○JR 水郡線 ○高速バス
	幹線公共交通	・郡山市、鏡石町、天栄村、玉川村及び石川町と周辺市町村との移動を可能とし、基幹公共交通の乗降場所とのアクセスを担う交通。	○路線バス（広域路線バス）
地域内交通	支線公共交通	・沿線人口の集中地区と鉄道駅や、鉄道駅と高校などとの移動手段として、市内のアクセスを担う交通。	○路線バス（市内路線バス） ○市内循環バス ○乗合タクシー
	補完公共交通	・ドア・ツー・ドアの少量個別輸送を担う移動手段で、多様なニーズにきめ細かく対応可能な機動性や柔軟性を有する交通。 ・鉄道や路線バス等の運行が困難な地域などにおいて、目的地までの移動や、鉄道駅・高速バス停の広域幹線交通までの移動手段としての役割を担うことが可能。	○タクシー
特定の利用者等の移動を担う交通		・広域幹線交通、地域内交通を補完し、買物など特定の利用者等の移動を担う交通。	○企業送迎バス（メガステージ循環バス等） ○介護タクシー

ウ) 交通結節点のあり方

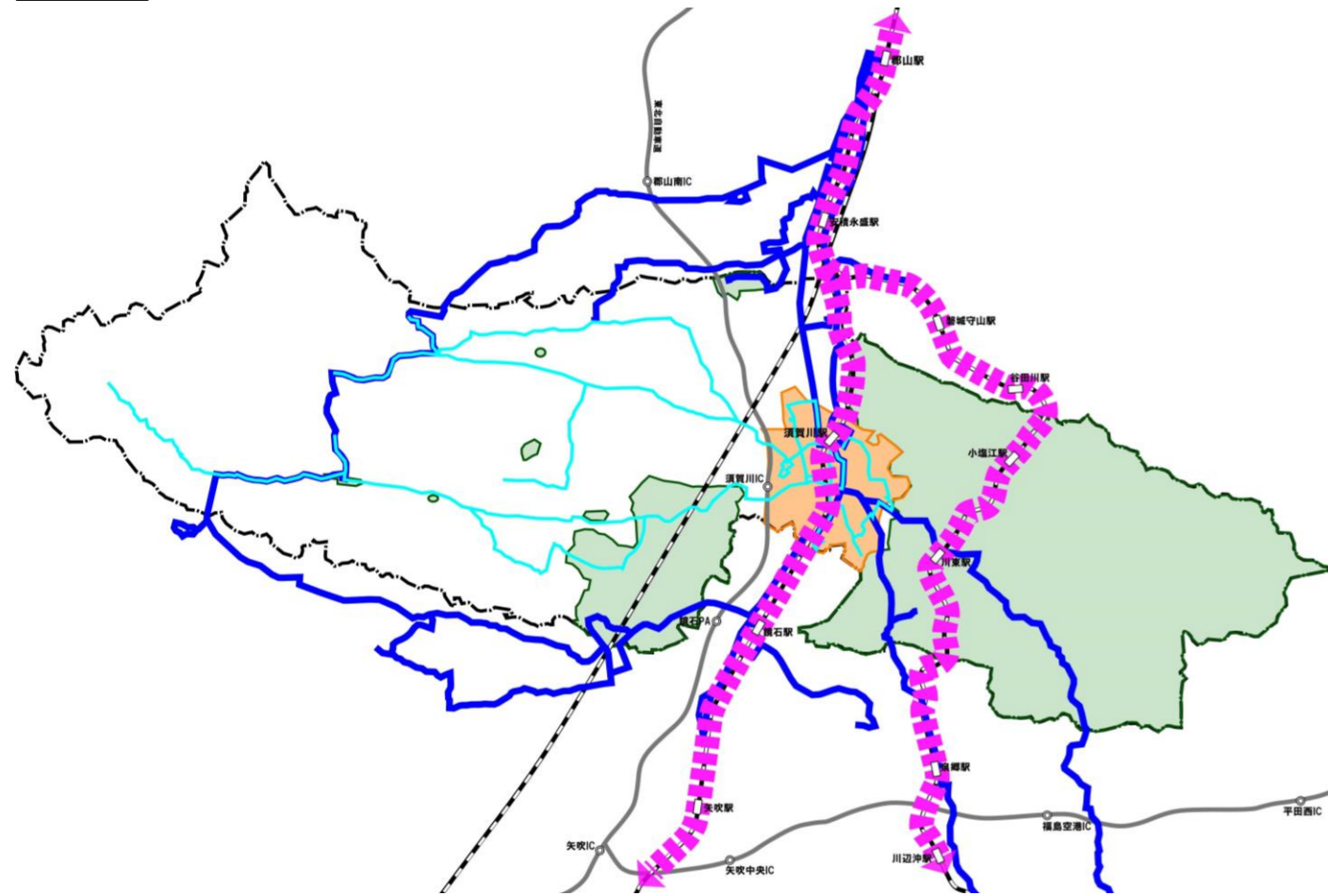
本計画における交通結節点とは、複数又は異なる交通手段を相互に連絡する乗換え・乗り継ぎ地点をいう。

交通結節点については、分かりやすい案内や動線の確保などによる情報提供や、乗継時間や運賃負担などに留意した乗継抵抗の軽減、多様な交通手段（鉄道、路線バス、市内循環バス、タクシー、自転車等）との乗継の保証などを確保することが重要である。

本計画の交通結節点は、公共交通ネットワークの現状、「須賀川市都市計画マスタープラン（現在改定中）」での拠点機能の位置付けや「須賀川市立地適正化計画（策定中）」のまちづくりの考え方等を考慮し、段階的に計画を進めていく。

■目指すべき公共交通ネットワークイメージ

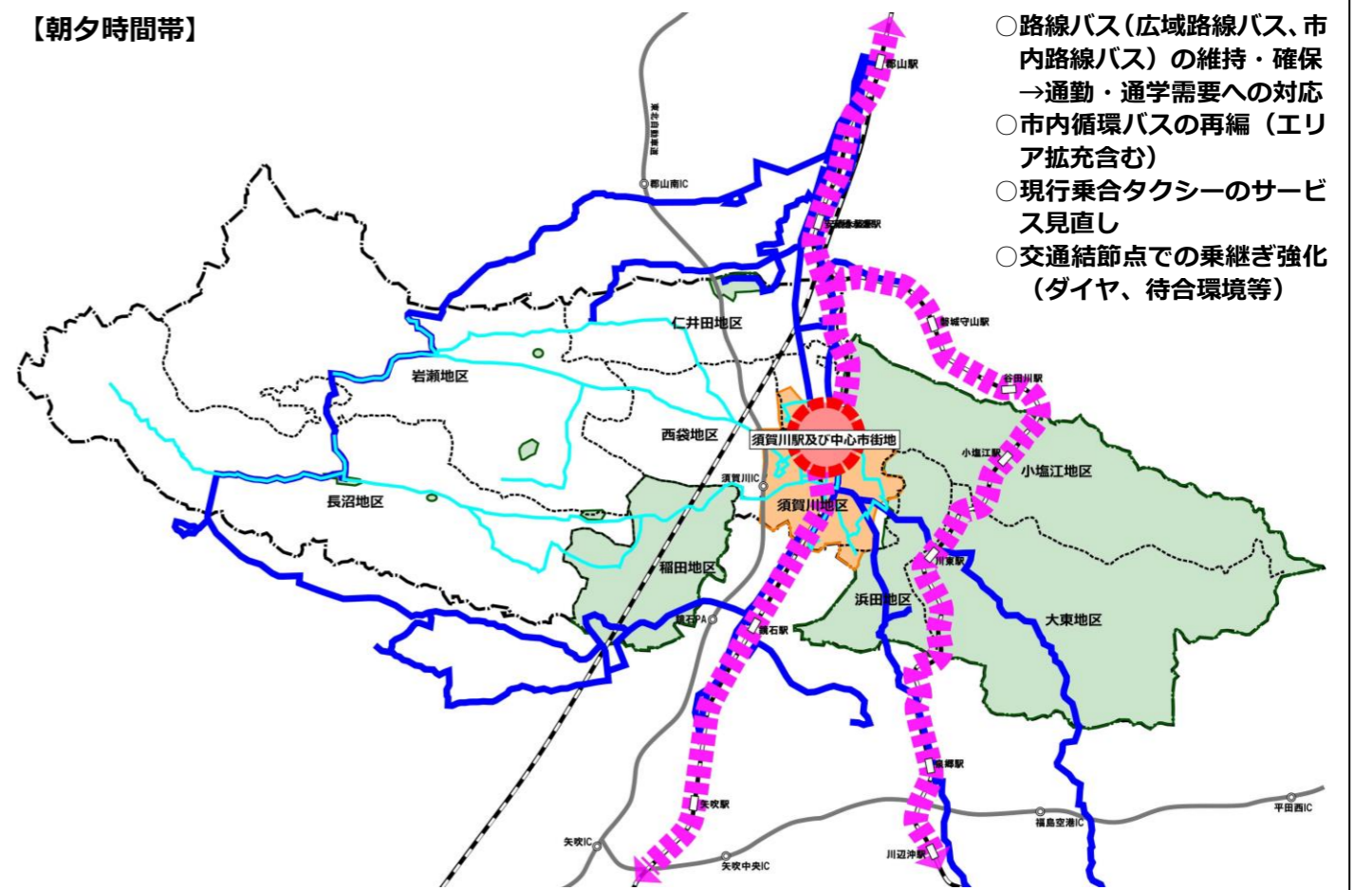
現況



凡例	
	基幹公共交通(鉄道)
	幹線公共交通(広域路線バス)
	支線公共交通(市内路線バス、市内循環バス)
	乗合タクシー利用可能エリア
	乗合タクシー目的地エリア

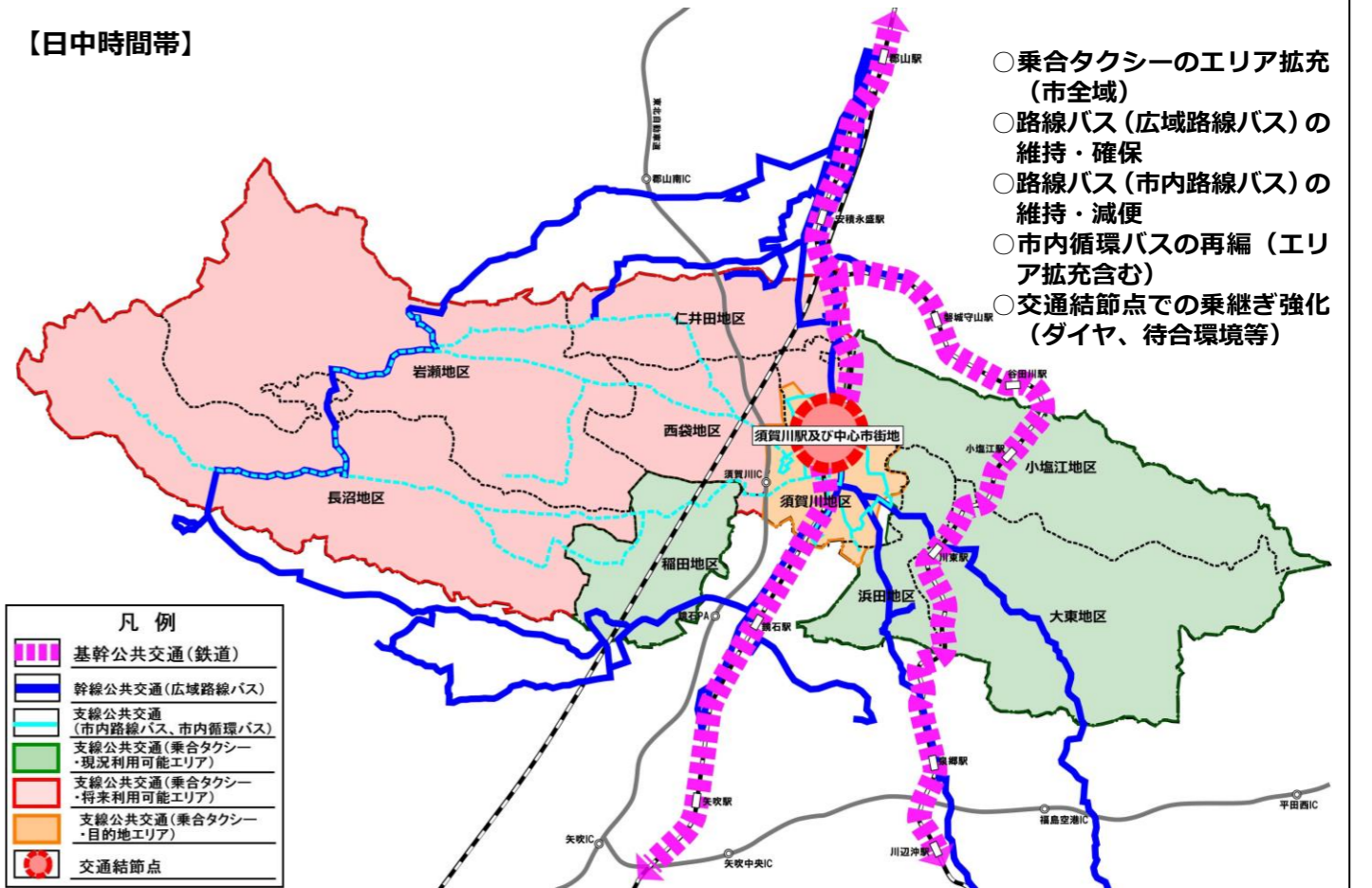
将来

【朝夕時間帯】



- 路線バス(広域路線バス、市内路線バス)の維持・確保
→通勤・通学需要への対応
- 市内循環バスの再編(エリア拡充含む)
- 現行乗合タクシーのサービス見直し
- 交通結节点での乗継ぎ強化(ダイヤ、待合環境等)

【日中時間帯】



- 乗合タクシーのエリア拡充(市全域)
- 路線バス(広域路線バス)の維持・確保
- 路線バス(市内路線バス)の維持・減便
- 市内循環バスの再編(エリア拡充含む)
- 交通結节点での乗継ぎ強化(ダイヤ、待合環境等)

凡例	
	基幹公共交通(鉄道)
	幹線公共交通(広域路線バス)
	支線公共交通(市内路線バス、市内循環バス)
	支線公共交通(乗合タクシー・現況利用可能エリア)
	支線公共交通(乗合タクシー・将来利用可能エリア)
	支線公共交通(乗合タクシー・目的地エリア)
	交通結节点